

[主訴]

右肩、右腕の痛みとだるさ

[随伴症状]

便秘、不眠、肩凝り、肩凝りからくる頭痛、歯が浮く感じがする、夜間くいしばり

[経過]

約1年前に右の肩と腕が痛みだした。

痛みはそのまま続き、半年前に肘の痛みも発症。

5か月前にステロイド注射を打つ。

注射直後は少々痛みが和らぐがまた再発するため鍼灸治療を試してみることにした。

原因として孫の世話、ストレス、くいしばりが考えられる。

[望診]

肉付きはよい、体色は黒寄り、艶が少々ない。とても明るく声にも力がある。

[切診]

大腸経に張りがある。

棘下や肩前面に圧痛なし。

肩の可動域制限なし。

缺盆付近に圧痛、硬結あり。

小腸経に痛みが強い。

[腹診]

全体的にやや柔らかい。

臍下に虚。

鼠径部やや圧痛あり。

[脈診]

浮、やや数、虚。

左関上重按で虚。右寸口軽按でやや実。

左尺中やや硬い。

[証の決定]

筋緊張、不眠、便秘、脈診から肝虚熱証と判断した。

[治療]

太衝、復溜の補法。

肝俞、腎俞に間接灸。

缺盆の圧痛部に置鍼。

大腸経の瀉法。

天柱、風池の瀉法。

肩の張りに対して散鍼。

五十肩の所見は見られないため腕の使い過ぎと夜間くいしばりによって頸部が緊張し発症したと判断し

た。

缺盆部に反応顕著で頸部の圧痛に左右差あり。  
大腸経の張りも認められることから局所治療として  
缺盆の単刺と大腸経実穴の輸瀉。  
右缺盆の刺鍼で腕部に得気。

[考察]

1 診：腕の痛みは和らいだ。だるさが残っている。肘の痛みは消失した。

2 診：右腕が少しだるく、左肩の痛みが気になりだした。

3 診：孫の世話をすると右腕の症状が悪化する。

20 診までに右腕の痛みが大分改善され治療間隔を週1回から2週に1回にする。

夜間くいしばりが腕痛の大きな原因で、痛みがある状態でお孫さんの世話をすることで症状が悪化していると考えられる。

鍼灸治療で睡眠中のこわばりを改善できれば歯が浮く感じや腕の痛みも緩和されていく。

次回は大腸経実穴に円皮鍼を貼り頸部緊張に対する効果をみることにする。